

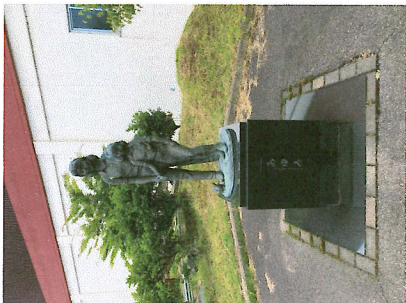
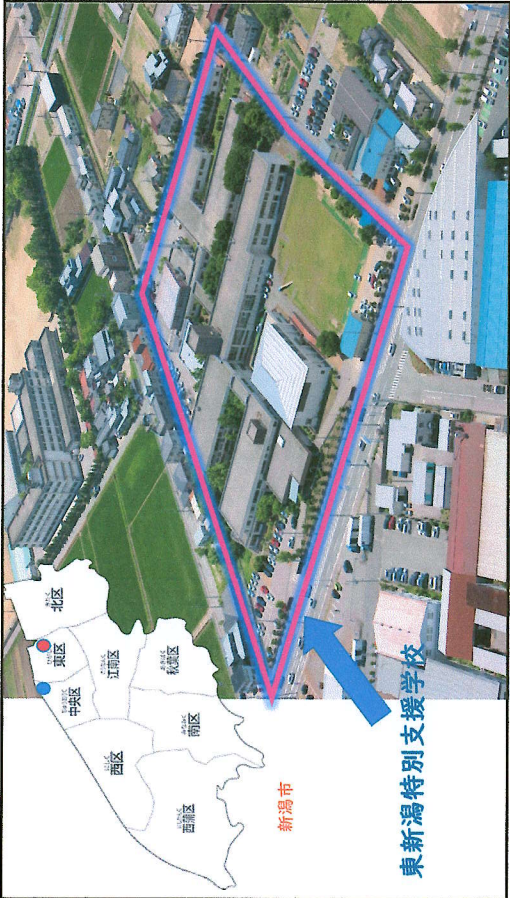
令和8年度全日本特別支援教育研究連盟全国大会新潟大会
第6分科会

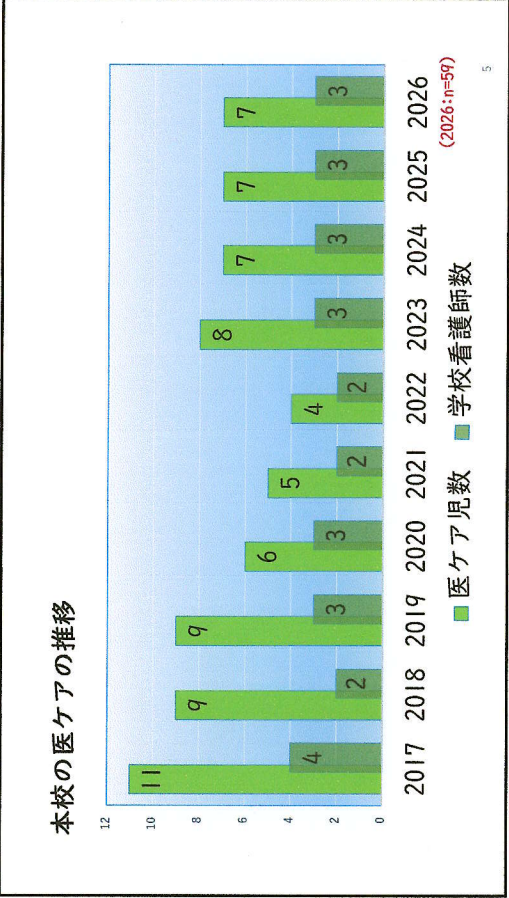
医療的ケアを基盤とした重度心身障害児の 学習参加を広げる指導・支援の工夫

新潟県立東新潟特別支援学校
教諭 小林 幸一

目次

- 東新潟特別支援学校の概要
- 多くの学習に参加するために
- 校内の理解を深めるために
- 多職種との連携を深めるために





対象児の実態

○小学部4年生 男児
仰臥位中心
筋緊張が強く、顔が左を向くことが多い。

医療的ケアの内容

- 呼吸器使用（非侵襲的陽圧換気）
- 常時吸引（適宜、鼻腔・口腔内吸引実施）
- 経鼻経管からの水分・栄養注入（8月から、胃ろう）
- パルスオキシメーターで、SpO2と心拍数を常時モニタリング

取組① 多くの学習に参加するために

(1) 学校看護師との情報共有

水分注入時のエア音確認

居食注入時の見守り

(2) 活動しやすい姿勢作り



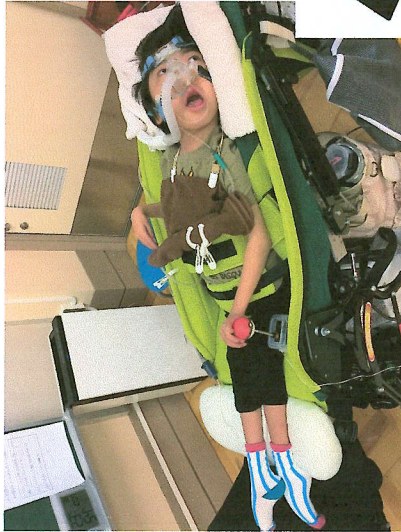
○活動しやすい姿勢

- ・呼吸、心拍が安定
- ・筋緊張が少し緩む
- ・視線や気持ちが活動に向けられる



○仰臥位で過ごすことが多いので、腹臥位や側臥位などクッションやエクササイズボールなどを使って様々な姿勢に取り組む

(3) 主体的な活動のためのスイッチ教材



- 朝の会で、「朝の歌」の伴奏スタート係
- ・棉スイッチ (どの方向に倒してもスイッチが入る物) とタブレット端末をつなぎ、伴奏がスタートする仕組み
 - ・意識して左手を動かすことがある
 - ・「スイッチ係お願い」という、職員とのやりとり、「上手にできたね」という評価の言葉に笑顔を見せたり、口を開けたりする
 - ・毎日取り組める良さ
 - ・他の発表で、VOCA等を使った時にも活用できる

タブレット端末

(4) 視線や表情などの変化の共有

- 教室に入るときに笑顔を見せるようになる
→職員言葉掛けに反応?
- 言葉掛けをせずに (他の職員も言葉掛けなし) 教室に入っても、笑顔を見せる
→寄り?振動?車椅子の動き?
- 常に呼吸器のマスクをしているので、なかなか香りは感じにくい
→何? (他の職員、保護者とも要因を探してみることがこれというものは見つからず)
- 違うクラスの教室に同じように入ると、表情の変化はなし
- 「見える?」
・生後、数ヶ月で水晶体をとってしまっているのので、明暗がわかる程度で、物の輪郭すら捉えられていない、と思っていた
- 「彼なりの見え方がある」と考えると、すべてがつかないが
・音楽の時間に、動く「シャボン玉」に視線を向ける様子もある



取組② 学校内での理解を深めるために

(1) いろいろな学習集団での学習

○当校小学部は、児童の発達課題別の学級編成をしている
独自の「発達のめやす表」を基準に編成
学年がバラバラ

○学年での活動

- ・同学年の友達からの言葉掛け
(職員とは違う反応)

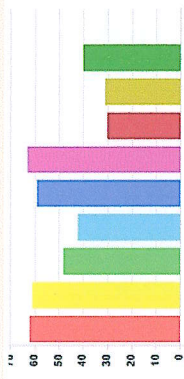
○学部全体や全校での活動



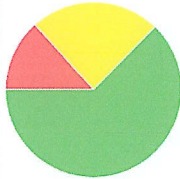
○多くの職員とのふれあい

(2) 職員研修の実施

図表④ 医療的ケアに対してどのようなイメージをお持ちですか。

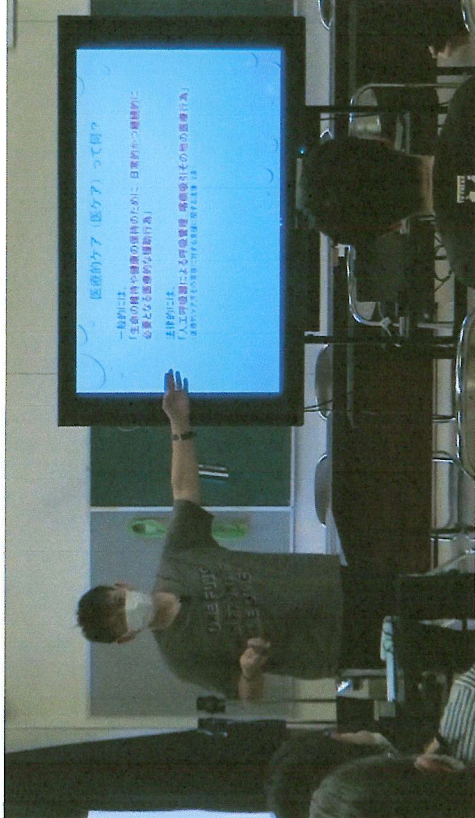


図表⑤ 医療的ケア児の担当経験



現在担当している	13.3% (10)
過去に担当経験がある	24% (18)
担当経験はない	62.7% (47)

児童生活の命を支える重要な役割	62
専門性が強い	61
疾患との関係が重要	48
不安や緊張を感じる	42
安全面への責任が大きい	59
保護者との関係が重要	63
教育活動の発展につながる	30
対応の難しさを感じる	31
学校全体の理解が重要	40
特にイメージはない	0



取組③ 多職種との連携

(1) 学校看護師との良好な関係作り



- 当校の3人の学校看護師
- 日々のケアを実施

○以前の勤務校で医ケアの主担当になって以来、毎日、受入前に学校看護師に挨拶に行くようにしている

- 話しやすい関係作り
- 情報共有のしやすさ**

(2) 福祉事業所との連携



○利用している福祉サービス

- ・放課後等デイサービス
- ・訪問看護
- ・居宅サービス

当校の校舎内で運営されている放課後等デイサービスの職員とは、本見が利用する際やお互いの時間がとれる時に情報交換をしている

(3) 医療機関・療育機関との連携



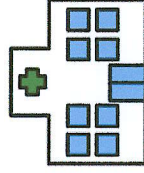
○レスパイト入院を利用
その際にリハビリを実施
学校職員が、その時間（他の患者
さんとの関係等時間が流動的）
に見学に行くことが困難



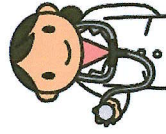
○療養機関の「学校派遣」を活用して、学校で療後のリハビリの様子を見せてもらったり、学校での取り組みを見てもらったりした

療育機関の、理学療法士の学校派遣の活用

医療機関との連携



- ・主治医訪問
- ・カンファレンスへの参加
- ・電話での相談



成果

○登校日数が増え、学習に参加できる場面が多くなった

課題

○情報収集の場の確保

○多職種との連携のあり方

